

## さのデイサービスセンター・谷中デイサービスセンター

### 1. 基本方針

個別ケアの充実。一人、一人有する能力と心身の状態に合わせてそれぞれの居場所づくり、居心地のよい空間づくりを目指す。

### 2. サービス課題（重点事業計画）

目標稼働率 通所介護 75%、さの認知 90% 谷中 70%

さの通所介護、谷中デイサービスセンターの稼働率が年間通して低迷している状況。

稼働率の大幅な向上と安定が課題。稼働率低迷状態の中、人件費削減と業務内容の効率化が求められる。

さの認知症デイではコロナ禍の影響によりショートが受け入れを休止することもあり急遽通所希望となり定員数を超えるためお断わりすることがあった。定員12名の中で高い水準で稼働を維持していく為の具体的な工夫が必要となり、通所介護で75%以上の稼働が求められる。その為、総合事業のニーズにも応え幅広く受け入れをしていくことも検討が必要。

#### 《通所介護》

##### (1) アクティビティの充実と丁寧なサービス提供

###### ア) 楽しく安全な場所作り

- ・月に1回、変わり湯（みかん湯、リンゴ湯等）を予定し楽しみを持つ。
- ・施設周りの空きスペースで花壇やプランターによる植物を育て利用者に役割を持ってもらうことで通所の楽しみとなるように努める。
- ・毎月、目玉となる活動を計画。ちらし、ポスターなどで利用者に楽しみを持ってもらう。
- ・麻雀、塗り絵、習字など利用者間で準備し楽しめる活動提供。塗り絵、習字では施設内でコンクールを開催しやりがいを持てるような工夫をしていく。
- ・コロナ禍でボランティアによる喫茶活動が中止となっていた。喫茶を楽しみにしている方も多く、感染予防対策を徹底し活動の再開を目指す。再開までの期間は喫茶の日を設け職員がコーヒーを用意。利用者同士の交流機会を設ける。またフラダンス等の講師活動も再開していく。

###### イ) 生活機能向上を意識したプログラムの工夫

- ・機能訓練加算1の実施。理学療法士が家庭訪問し自宅での課題に沿ったリハビリを提供していく。
- ・集団体操の中で失禁予防、認知症予防なども取り入れ、生活に密着した訓練の実施。
- ・散歩や買い物活動を実施し日常生活動作訓練を行うと同時に生活支援にもつなげていく。
  - ・さの独自の音楽体操を作り自利用者から地域へ広げるような取り組みをしていく。

#### 《認知症対応型通所介護》

##### (1) 2022年度の振り返り

###### ア) さのデイ

- ・近隣の認知症デイへの見学機会を設け、良いところを取り入れることで活動の幅が広がった。
- ・個人で作成できる四季折々の手作業を用意し利用者・家族も満足できる内容であった。
- ・昨年度より手作りおやつや行事が再開。賑やかな雰囲気活動することができた
- ・プランターでの植物育成を行い通所に楽しみが持てるように努めることができた。
- ・編み物活動を実施。昔やっていたこともあり利用者が率先して行い通所の楽しみにしてくれる方、完成を楽しみにする家族おり好評であった。

#### イ) 谷中デイ

- ・コロナ禍により活動縮小していた農園活動を小規模農園やプランター栽培という形で実施でき、作物育成や収穫作業を楽しむことができた。
- ・少人数という谷中らしさを活かして谷中独自の季節行事や活動を盛り込み、感染予防に努めながら外出活動を定期的に行うことで利用者の季節感を感じ、気分転換に努めた。
- ・少人数活動をメインに、職員配置を見直し、個別性を重視した対応や個別ニーズに基づいた  
デイでの過ごし方を提案・実現できるようになった。
- ・中学校敷地内という環境面で中学校との交流は未だ停滞しているが、通所ではなく学校という点を活かした活動場所として幅広い受け入れができた。
- ・認知症デイとして居宅事業所や地域への認知度は低く、年度途中より稼働率が低迷していた。

### (3) 認知症状に合わせたケアを提供し安心、快適にすごしてもらう

#### ア) さのデイ

- ・植物や生き物（アニマルセラピー、アクアリウム）を飼育することで日々通所する中での楽しみを増やす
- ・洗濯物や掃除、テーブル拭き、買い物、料理などの生活動作を取り入れた活動の提供。
- ・足の爪切り、水虫のケアを定期的に行い衛生保持に努める。
- ・回想法を取り入れ懐かしい事案に触れ認知症予防に努める。
- ・天気の良い日は散歩などの外気浴を取り入れ季節を感じてもらおう。
- ・女性利用者へ編物活動の提供。また学校を思い出せるように職員が講師となって行える活動の提供。

#### イ) 谷中デイ

- ・小人数規模（1単位）を活かした活動内容の充実。  
定期での季節を感じる外出活動、自宅での役割意識に繋がる家事活動、自立支援を活かした生活動作リハビリなど。
- ・利用者ひとり一人の個別性を重視した対応と生活状況に合わせた利用の工夫。  
短時間利用や個別対応に配慮した過ごし方、曜日ごとに雰囲気考慮し他者交流から楽しみに繋がる通所を促す。通所ではない「活動場所」としての受け入れ。
- ・谷中デイの独自性（農園活動、家事活動、中学校交流等）を外部へのアピール強化。  
パンフレットの刷新、見学・活動参加のお誘い、定期的なさのとの交流会
- ・安定した職員配置による、充実した認知症ケア。
- ・幅広い層を受け入れられる環境整備（リフト浴や車椅子対応など）
- ・感染症対策を徹底し、中学校との交流再開に向けた中学校との関係作り。

### 3. 稼働率向上、人件費削減への取り組み

- ・居宅支援事業所との意見交換を実施。また他居宅支援事業所へも定期的に訪問し情報を収集し現在の必要ニーズに応えられるサービス提供。
- ・昨年度から取り入れている短時間での滞在（3～4）を継続して実施。短時間から通常の時間帯に変更できるようにアプローチし増収につなげる。
- ・定期的に居宅支援事業所を訪問し連携を密にする。各月に目玉となる活動の宣伝ちらしを作製し配布。ケアマネにも利用者訪問時に紹介できるようにしていく。ちらしを利用者に配布することでスポットでの通所につなげていく。
- ・谷中、さの通所、認知デイの3グループの特色をケアマネへ宣伝する機会を設ける工夫をする。

- ・業務効率化により超過勤務の削減をする。通所介護、認知症介護の合同での活動時間を作り人員を捻出。送迎ルートを精査し便数を減らし職員の添乗機会を減らすことで事務作業の時間を作っていく。施設内会議の時間帯と内容を検討し勤務時間内に収める工夫を検討。
- ・稼働率、経営状況を職員間で共有し職員の意識改革に努める。
- ・利用者様が自立して行えるプログラムの検討。読書、カラオケクラブ、オセロ等。見守りのボランティアを活用し利用者の満足度を下げないようにしていく。
- ・ライフ連携による科学的介護加算、機能訓練加算Ⅱを算定し通所介護の増収を図る。
- ・要支援者へも個々のニーズに合わせた滞在時間、希望サービス（入浴など）提供により新規利用の増につなげる。
- ・節電、節水などに日々努め、出費をおさえていくように職員間で周知する。

#### 4. 家族支援の強化(共通事項)

- (1) 連絡帳や送迎時、電話での情報共有。介護負担が増えている家族への心身のケアを心掛け、居宅支援事業とも連絡をとりあい、在宅生活を支援していく。
- (2) 運営推進会議の定期開催による情報提供
- (3) 担当者会議など積極的な参加をし、情報共有に努めていく。
- (4) 家族参観日を計画し利用者様の様子をみて頂き情報の共有機会とする。